

令和7年度 江戸川区立松江小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	「かがやき」 かいっぱい笑顔いっぱい松江の子		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・あなたもわたしも大切な一人を目指した学校 ・まなぶ子・つよい子・えがお ・児童にとって必要な教育を目指す教師
前年度までの本校の現状	成果	○問題解決学習や探究的な学習を基盤にした授業改善 ○体育の授業力向上と児童の体力向上へ向けた取組の強化		課題	○基礎・基本の定着や更なる学力向上 ○松江スタンダードを基にした指導の徹底

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	学校の組織的な対応による取組の実施・改善・充実	・校内研究を全教科とし、「主体的・対話的な深い学び」を校内で共有し、全員が授業を行う ・ICTを授業内で効果的に活用し、思考力判断力表現力を養う。 ・学力向上委員会で江戸川っ子study weekの在り方の検討をし、家庭での学習習慣を身に付ける。	・課題を把握し、計画を立て取り組み、振り返りを行える授業を100%にする。 ・授業内でのICTの活用の見直しを80%行う。 ・江戸川っ子study weekの在り方の検討をし、家庭での学習習慣を身に付ける。	70%	80%	B	・「主体的・対話的で深い学び」のある授業を目指し、理科と社会で研究授業を行った。 ・ICTを効果的に活用できるよう提案授業を行ったり、研修をしたりしてる。 ・「江戸川っ子study week」の1回目をおこなった。引き続き児童が取り組みやすいよう工夫する。	B	・「わかる」「できる」授業を行ってほしい。 ・今の児童はICTに触れる機会が多い。正しい使い方を習得できるよう期待している。 ・家庭への啓発が必要である。	B	・全学年、わかば学級で研究授業を行い、「主体的・対話的で深い学び」のある授業を目指し、研究を重ねることができた。 ・ICTを授業に取り入れる取組は全学年で行えた。 ・子供たちが自ら選択することで学習に対する意欲を向上させる目的で家庭における自主学習の取組を始めた。	B	・子供たちに生き抜く力を身に付けさせてほしい。 ・研究授業をとおして、探究学習の在り方が課題となることが分かった。次年度の研究の観点とする。 ・ICTの効果的な使い方やモラルについて引き続き指導を行う。 ・自主学習の方法や内容の見直しを図り、家庭との連携を深めていく。	
	○読書科の更なる充実	・学校図書館の利用を、意図的・計画的に行い、探究的な学習ができるようにする。 ・蔵書管理システムが導入されることから、探究的な学習がしやすい環境を整える。	毎週の利用予定を作成し、全学級が定期的に利用できるようにしていく。探究的な学習を全学年、学期に2回行う。	70%		B	・全学級、本に触れる時間を設け、本が身近にある環境が整えられている。 ・探究学習に本を活用できるようになるにはあと一歩である。	B	・家庭で本に親しむ機会が減っていることに危惧をする。	B	・読書科における探究学習を全学年で行えている。		・次年度の研究の観点の1つとし、読書科との探究学習の在り方について考えていく。	
	・運動意欲の向上や健康の推進に向けた取組の実施・改善・充実	・体力低下に歯止めを掛けられるように、休み時間の外遊びを充実させる。 ・「江戸川っ子なわ	・体力調査において江戸川区の平均値を上回る。体力向上に向けた	70%	70%	B	・暑い日が続き、校庭で体を動かす機会が限られていた。環境を工夫する必要がある。 ・「江戸川っ子なわと	B	・昔と違い、子供たちは制約の中で体を動かさねばならない。学校の取組に期待する。	B	・カードを活用したマラソンアタックなどが子供たちの意欲を向上させている。	B	・ウインタースクールも含めて日頃できないことができるのが良い。 ・スマホ使用量などによる健康被害が心配である。	・健康の保持増進のため、体を動かす機会を増やしていく。

体力の向上		とびチャレンジウイーク」を通して縄跳びに親しむ。また、マラソン、生活リズム向上週間、オリパラ掲示板の充実を図る。	取組年間3回の実施を目指す。 ・マラソン・なわとび年間各4週間実施して体力向上を図る。				・「なわとびチャレンジウイーク」では講師の先生によるデモンストレーションにより子供たちの意欲が向上された。							
-------	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">実況に向けた 共生社会の 教育の推進</p>	<p>共生社会の実現に向けた教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回、特別支援教育委員会を行い、情報共有を図る。また、ユニバーサルデザインを取り入れ、教室環境を整える。 ・エンカレッジルームの活用表を作成し、計画的な活用を目指すとともに、特別支援コーディネーターのリーダーシップで効果的に活用する。 ・特別支援コーディネーターを中心に副籍交流や交流及び共同学習の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回、教員がわかば学級で研修を行う。配慮の必要な児童への対応の仕方を学ぶ。 ・エンカレッジルームを活用し、配慮の必要な児童の安心できる居場所を確保する。 ・年に1度、副籍交流や交流及び共同学習を行う。 	50%	80%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援委員会を月に1回行い、「J」情報共有を図れている。 ・わかば学級での研修を行い、支援の在り方を学んでいるところである。 ・別室ならば登校できる児童が増えている。別室での過ごし方が今後の課題となる。 ・特別支援コーディネーターを中心に近隣の学校と情報共有を行っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な児童が増えており、学校の支援も複雑になっている。地域とも連携し、子供たちの対応にあたりたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援委員会などで情報共有を行い、担任だけではなく学校全体で対応する体制が整えられた。 ・わかば学級での研修を全教員が行うことができた。配慮が必要な児童への手立ての方法を学ぶことができた。 ・エンカレッジサポーターを配置し、児童の居場所づくりに取り組むことができた。 ・近隣の学校の様子を校内で共有し、生かすことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・エンカレッジルームの活用など、多様な児童が増えている中、教員や学校はよくやっている。 ・今後も情報共有を行い、支援の在り方について協議していく。 ・配慮の必要な児童への対応の在り方を学ぶため、今後もわかば学級での研修を続ける。 ・不登校を未然に防げるよう児童の居場所づくりや過ごし方について体制を整えていく。 ・次年度も近隣校との連携を図る。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">不登校・いじめ対応の充実</p>	<p>子どもたちの健全育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年、アンケート 全員面接を実施する。 ・登校に不安のある児童を関係諸機関に全員つなげる。 ・必要に応じてケース会議を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任やSCによるアンケート、面接を7月に児童100パーセント行う。 ・いじめ防止対策委員会を毎月行う。 ・毎週金曜日に全職員での共有を図る。 	80%	90%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを行い、不安のある児童については必要に応じて担任や他の教員が対応にあたった。 ・いじめ防止対策委員会を毎月行い、情報共有に努めている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・心配な児童が増えている。特に不登校の児童は家庭に原因がある場合もある。地域でも見守っていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートや56年児童の全員面接を行うことで、いじめや不登校について未然防止や早期発見ができ、早期解決できた。 ・毎月行われるいじめや不登校防止対策委員会での情報共有が学校全体で対応にあたるために有効だった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者は教員に対し、子育てを一緒にする、助けてくれる仲間と考えている。保護者とともに児童の育成を支援してもらいたい。 ・未然防止や早期発見、早期解決のため今後も児童の声を聴く機会を設ける。 ・学校全体で対応にあたることで解決できたことも多くあり、今後も続けて行く。
	<p>教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭、地域にHP、学校だより等を活用して、教育活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPは各学年週に1回。学校だよりは日 	70%	80%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの更新により教育活動の発信が行われている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校でどのような教育活動が行われているかわかるようにしてもらいたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・HPや学校公開などで教育活動についてみていただき、声を聴くことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・HPなどで学校の様子がわかり、子供たちからの情報と合わせて知ることができた。 ・家庭や地域の声が聞ける機会を今後も続ける。

<p>学校（園）の 実現</p> <p>地域社会に 開かれた</p>	<p>関係者評価の実 施・改善</p>	<p>活用して、教育活動 を発信する。 ・学校公開の周知、 徹底を行い、教育活 動を伝える機会とす る。</p>	<p>校たまりは月 に1回、家庭や 地域に向けて 発信する。 ・年3回学校公 開を行い、全 家庭の参観を 目指す。</p>			<p>・6月に行われた学校 公開では保護者のみならず、地域の方や来年 度入学する家庭も多く 来校し、関心の高さが うかがえた。</p>						
<p>教育の展開 特色ある</p>	<p>防災教育の推進</p>	<p>・東日本大震災につ いて語り継ぐととも に、犠牲になられた 方への哀悼の意を表 する機会を設定す る。 ・6年生で「防災プ ロジェクト」を行 い、地域の防災訓練 と連携を図る。</p>	<p>・東日本大震 災発災日であ る3月11日 には「3. 1 1集会」を実 施する。 ・11月8日に防 災訓練を行 う。</p>	70%	80%	<p>B</p> <p>・6月の学校公開の 際、保護者や地域の方 を対象とした東日本大 震災についての講演を 行い、反響が大きかつ た。 ・地域との防災訓練に ついて打合せを行い児 童の学習に合わせて計 画を立てている。</p>	B	<p>・防災について、学校 が地域の拠点になるよ う円滑な連携が必要で ある。</p>	B	<p>・避難訓練や総合的な 学習時間などで災害に 対する意識をもたせる ことができた。 ・地域との防災訓練を 行うことができた。地 域の拠点としての役割 を考えさせられた。</p>	B	<p>・家庭や地域の考えを 受け止めつつ、現在の 状況と照らし合わせ て、対応をしていなく なければならない。 ・自分で自分の身 を守るための方法を 今後も考える教 育活動を続ける。 ・地域の拠点とし てどのような訓練 が必要かを考え、 実施する。</p>